

高齢者福祉医療戦略会議の進め方について

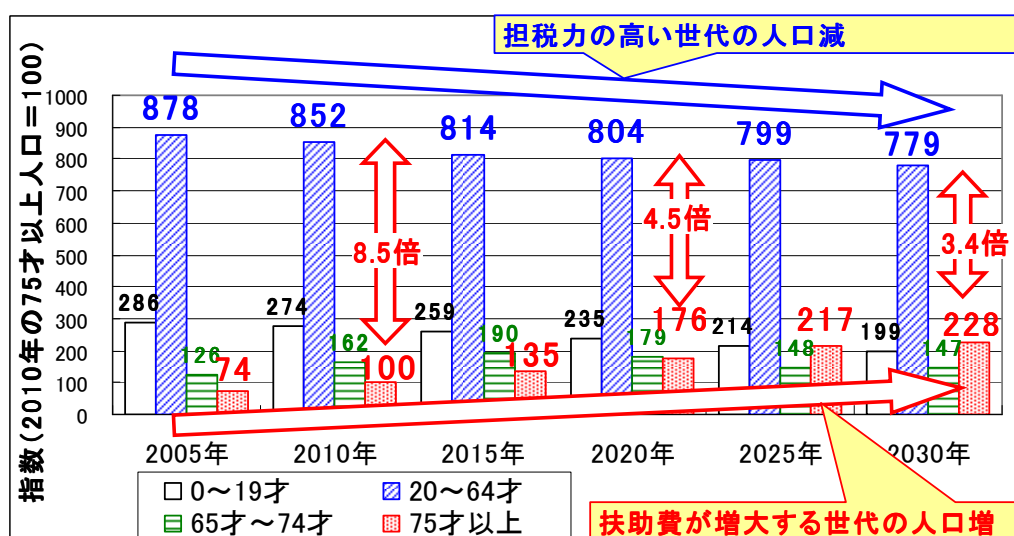
平成24年2月3日(金)

(1) 議題設定の考え方

① 前提

- 戦略会議の開催目的は「高齢者が安心して暮らせる地域づくり」に向けた関係者による議論であり、キーワードとして「医療」「介護」「住居」「地域住民の支えあい」が例示されている。
- 今年度の「第5次高齢者保健福祉計画」「第2次地域福祉計画」の策定過程にて地域の関係者による議論が為されており、同じような議論（課題抽出・提起、対策検討）の繰り返しは避ける。
- 「第5次高齢者保健福祉計画」は来年度からの3ヵ年計画である等、上記の2計画の議論はあくまで比較的短期間の想定であり、2計画での議論との棲み分けを図る必要がある。また、2020年の本市の75歳以上の後期高齢者人口が2010年の約1.8倍に急増すること（国立社会保障人口問題研究所H20.12推計結果）への準備の必要性から、約10年後（2030年）を見据えた中長期的な視点に立った取組の方向性を議論することが適当。

図表 小牧市の年代別の将来人口の推移（2010年の75才以上の人口を100とした場合）



出典：国立社会保障・人口問題研究所H20.12推計結果に基づき富士通総研が加工

② テーマ

- 大きなテーマを次のように設定

10年後を見据え、高齢者が自宅で安心して暮らせる（元気で活発に生活し、仮に身体機能の低下等があっても様々なサービス等を受けながら引き続き自宅で生活できる）地域づくり

第1回_高齢者福祉医療戦略会議（H24.2.3開催）

③ 議題

- 上記テーマを具体化するため、まずは構成メンバーで「10年後の高齢者の生活イメージ」を議論しイメージを共有（目指すべき姿の共通認識化）。事務局からたたき台（次ページ）を提示しそれを追加・修正する形で進める。
- 次に、共有した生活イメージの実現に向け、現状の小牧市で可能なこととのギャップを明確化（課題整理）。出された様々な課題を分野毎にグループ化して整理。課題整理では、①②に示したように議論の重複を避けるため、現在積み残しの課題を踏まえた将来発生しうる課題を中心に議論。
- その上で、分野毎に、ギャップを埋めていくため（課題解決）に、今から約10年間で取り組むべき事項を整理。

④ 実施予定回数

- (1)イメージ共有を1～2回程度、(2)課題整理を2～3回程度、(3)必要な取組の整理を2～3回程度と想定。
- 課題整理におけるグループ化の状況により、1分野で1回を費やす場合（例えば「医療」「介護」等）と1回で複数分野を取り扱う場合に分ける。

第1回_高齢者福祉医療戦略会議 (H24. 2. 3 開催)

(2) 検討スケジュール (案)

年	月	高齢者福祉医療戦略会議
平成23年度	1	
	2	第1回会議 ・会議の趣旨・目的、開催スケジュールの確認 ・「10年後の高齢者の生活イメージ」の共有①
	3	
平成24年度	4	
	5	第2回会議 ・「10年後の高齢者の生活イメージ」の共有② (※1回目で不足する場合) ・現状の小牧市で可能なこととのギャップを明確化 (課題整理) ①
	6	
	7	
	8	
	9	第3回会議 ・現状の小牧市で可能なこととのギャップを明確化 (課題整理) ②
	10	
	11	
	12	第4回会議 ・現状の小牧市で可能なこととのギャップを明確化 (課題整理) ③
	1	
	2	
	3	
平成25年度		第5～7回会議 ・ギャップを埋めるため (課題解決) に必要な取組の整理①～③

10年後の生活イメージの共有

現状とのギャップ(課題)の明確化
(課題認識の原案に追加・削除等)